ぐるだいニュース

第14号
（1999年５月15日）

発行所：　〒004-8631　札幌市厚別区大谷地西2-3-1
北星学園大学社会福祉学部（鹿内研究室）
日本グループ・ダイナミックス学会
電話：011-891-2731　Fax：011-894-3690
発行人：　大坊郁夫　　編集担当：堀毛一也

★★　集団指導士資格への期待　★★

皆様もご存じのように、ここ数年の間に、心理学関係の学会が次々と資格認定制度を発足させております。本学会でも、すでに総会やニュースターを通じ何度かお伝え致しておりますように「集団指導士（仮称）」の資格認定制度の導入を検討中です。今回は、担当常任理事の橋口先生のご尽力により、現場でのニーズや期待について、いくつかご意見をいただきました。

株式会社　人間科学研究所

所長　高岡　章一

グループ・ダイナミックスは、組織体の人間関係的側面から経営組織を活性化させるのに非常に効果性が高いものであります。私自身の経験として、サラリーマン時代に在職した製薬会社の売り上げが10年間で約５倍、経常利益が20％の会社に成長、同社の関連会社の小売業では５年間で経常利益を約２倍にした経験を持っています。また独立後８年ですが、組織の活性化により数社が二部上場、店頭公開（準備中を含む）までになっております。いずれも，リーダーシップをはじめとしたグループ・ダイナミックスの成果を活用したもので，その力は組織の活性化に欠かせないといっても過言ではないと考えます。

しかしながら、このような経験、スキルを持っていてもコンサルタントとしての守秘義務等もあり、会社名を公表したり実績をＰＲすることも出来ないのが現状です。せめて社会的にも評価されるグループ・ダイナミックスの資格などがあれば、社名の公表・実績のＰＲはも兎も角としても、コンサルタントに対する信頼性も高まり、よりきちんとしたアクションリサーチの展開が可能になると考えています。　また、実践の場ではグループ・ダイナミックスはその名前も内容も十分知られているとはいえず、コンサルタントも自分の使い易い理論や内容を部分的に使っているのが実情です。学者はグループ・ダイナミックスの理論に精通していても、実践の場である企業を知らないといえます。理論と実践の両方を理解してこそグループ・ダイナミックスが真価を発揮するはずです。その点でも、資格を持った者が、社会で活動することは、グループ・ダイナミックスを実践で生かすだけでなく、グループ・ダイナミックスが社会から正当に評価されることにもつながると考えます。

松下教育グループ

理事長　松下　啓志

現在、学級崩壊、学校崩壊という言葉が毎日のように紙上をにぎわしています。教育現場がかかえている問題はますます深刻化する一方ですが、これは今に始まったことではありません。すでに何年も前から、例えば高校では中退者が年間約10万人、留年する生徒が40万人以上、不登校が７万人という事実が、学校教育の惨状を如実に物語っています。　教育者ならばこうした実態に手をこまねいているわけにはいきません。子供たちを苦しめる原因の一つは、基礎学力のない生徒を置き去りにして見切り発車でどんどん進んで行く授業のありかた、つまり生徒の学力を伸ばすシステムがないことです。弱点を補い、わかるところまで戻って教えるというやり方を徹底すれば、必ず理解できるようになり、学習意欲もわいてきます。それを実証する23年間にわたる実践の記録と方法は、拙著『勉強ができない子供でも必ず１００点がとれる』（講談社）にまとめてあります。　先生が一方通行でしゃべる画一的な授業ではなく、１チーム５名の小集団に分かれて、ディスカッションしながら全員がわかったことを確認して進んでいけば、成績向上とともにリーダーシップやコミュニケーション能力、思いやり、問題解決能力なども身につきます。私が合宿特訓を通じて試行してきたこの指導方法が、グループ・ダイナミックスに基づく小集団学習と同じであったことを知って以来、私たちは小集団における指導者研修システムを整備してきました。しかしながら現時点では，そうした指導者には第三者から評価される資格がありません。教師たちが自信を持って教育をすすめるためにも，きちんとした資格の必要性を痛感しています。こんなときに，グループダイナミックスのような実績ある学会が、先生方のリーダーシップを養成し資格を与えることに協力していただければ、どんなに心強いかと思います。

子供たちは先生しだいで良くもなれば悪くもなるのです。子供たちが夢と希望をもって学校生活を送れる教育システムを、力を合わせて実現しようではありませんか。

資格認定制度に寄せて

特定非営利活動法人　日本災害救援ボランティアネットワーク

私ども日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）は、阪神・淡路大震災以降、災害救援や防災まちづくりを行ってきたNPO（非営利組織）です。これまで災害救援・防災における産官学民の連携の大切さを世間に訴え、実践してきました。これは震災時、各セクターが個々バラバラに救援活動や調査活動を行ったことで、かえってそれぞれの特性が生かされず、被災者が置き去りにされるという体験から学んだことでした。学民連携については、NVNADには設立当初から"研究班"があります。これは主として貴学会会員のご協力を頂いているものです。スタッフやボランティアによる実践と研究班による研究成果が両輪となって、NVNADの活動が進められています。 研究者とNPOとが日常から有機的に結びつくことが有効ではないか、というのが研究班をもつNVNADの実感です。NPOは、それぞれの現場で様々な問題に直面しています。ただ、問題があまりに具体的でその現場特有であるために、なかなか他の NPOとの共通点や相違点を整理しながら互いに活動を広げていくことができません。このままでは、各々のNPOが実践を通して蓄積してきた知恵も各NPOの内部に沈殿してしまいかねません。こういう時に様々な活動を一歩抽象的に整理して理論的に考える研究者と一緒に活動を振り返り、今後の方向を見いだすことができればNPOの活動にも一層の広がりと充実感

が出てくると思います。ただ、研究者の集まり＝学会に出ていって議論するのは、ちょっと敷居が高いように感じますし、学会としても無条件で誰にでも意見を述べる機会を与えるというのは問題なのかもしれません。学会と現場の当事者が積極的に交流して行くには何らかの制度的な仕掛けが必要だと感じておりました。

この度、貴学会において、資格認定制度が検討されていると聞きました。実践の現場をもつ私どもが資格認定を受ければ、単に研究対象としてのNPOとしてではなく、学会の活動にもっと積極的に参与し、活用していくきっかけになります。資格をもったことで場の問題意識が一層高まり、活動を見直したり、様々なNPOの知恵がつながる土壌もでそうです。学会に研究者とNPOが各々の特性を持ちよって、研究と現場の食い違いなどを丁々発止やりあうことができれば、双方にとって何よりの刺激になるかと思います。

貴学会の資格認定制度は、学会とNPOが互いに助け合っていくきっかけとなる先駆的な試みだと思います。資格制度を１つの通路として学民の連携によって新しい社会作りに貢献できればと思います。

資格制度導入に関する会員の皆様のご意見をお寄せください。

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見◆
北星学園大学社会福祉学部（鹿内研究室）
〒004-8631　札幌市厚別区大谷地西2-3-1　北星学園大学社会福祉学部
電話：011-891-2731 Fax：011-894-3690 E-mail：z00119@hokusei.ac.jp

◆ニュースレターの編集・記事の投稿◆
岩手大学人文社会科学部堀毛研究室
〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34　岩手大学人文社会科学部
電話・Fax：019-621-6842 E-mail：kekehori@iwate-u.ac.jp, QGB03376@niftyserve.or.jp

★★　グループ・ダイナミックス学会　第47回大会のお知らせ　★★

本年度のグループ・ダイナミックス学会（第47回大会）は、**９月18日（土）、19日（日）**の両日、大阪府守口市にあります**大阪国際女子大学人間科学部**で開催されます。大会委員長は石井滋先生です。多数の皆様のお越しをお待ち申し上げております。　なお、**ワークショップ企画の締め切りは５月20日（木）、原稿締切および諸費用の払い込み期限は６月18日（金）**です。それぞれ期限を厳守いただきますようお願い申しあげます。詳細は第１号通信をご参照ください。

★★　アジア社会心理学会台北学会のお知らせ　★★

本年８月に開催されるアジア社会心理学会について、前号に引き続き山口勧先生にご案内をお願いしました。

アジア社会心理学会台北大会は、すでにお知らせしてありますように本年**８月４～７日**にAcademia Sinicaで開催されます。現在のプログラム案によれば、基調講演および招待講演の他、ポスター発表が約170、シンポジウムでの口頭発表が約140予定されています。日本からは約60の発表申込みがあったとのことです。これまでの大会に匹敵する、あるいはそれ以上の盛会になることが予想されます。

グルダイ会員には大会参加費が割り引きになりますので、夏の予定をまだ決めていらっしゃらない場合には、ぜひご一考ください。
発表を申し込んだ方には、もうすぐ宿舎の案内などがAcadimia Sinicaの準備委員会から送られてくることと思います。なお、最新の情報はホームページ、http://www.sinica.edu.tw/~aasp/、あるいは電子メール（aasp@sinica.edu.tw）でお尋ね下さい。

★★　実験社会心理学研究第39巻２号の特集について　★★

「阪神大震災後のグループダイナミックス―５年目の実践・反省・収穫―」の論文募集

実験社会心理学研究の第３９巻第２号の特集は、上記の表題で、企画者の八ッ塚一郎氏による依頼論文と公募論文をもって構成することに決定いたしました。なお、常任編集委員会では、特集論文の扱いについての諸意見を踏まえ、他の投稿論文の場合に準じた審査を行うことと致しましたので、その点につきましても了解のうえご投稿ください。

上記の特集への執筆希望者は、氏名、所属、論文のタイトル、簡単な内容を**６月５日（土）まで**に学会事務局（鹿内研究室）宛にご連絡ください。

★★　著作権の帰属の表記について　★★

先般の常任理事会で、実験社会心理学研究の現在の執筆・投稿規定の末尾に「12．本誌に掲載された論文の著作権は日本グループ・ダイナミックス学会に帰属する」を加えることが了承されました。 掲載論文の書籍等への引用に際しては、原則として学会への許可を求めることになりますのでご留意ください。また研究論文等の場合には出典を明記していただきますようお願い申しあげます。

★★　研究会の共催について　★★

電子情報通信学会のヒューマンコミュニケーション基礎研究会（委員長　西田正吾氏　、幹事補佐　中村　真氏）との共催で研究会を開催いたします。多くの方々のご参加をお待ち申し上げております。

平成11年度第一回研究会
テーマ：「コミュニケーションの心理と生理及び一般」
日　時：1999年６月17，18日
開催地：琉球大学
費　用：参加費無料

★★　常任理事会（常任編集委員会）報告　★★

日　時：1999年４月17日（土）　13:30〜18:00
場　所：北星学園大学研究棟４階共同研究室
出席者：（会長）大坊郁夫、（常任理事）鹿内啓子、外山みどり、橋口捷久、堀毛一也、村田光二、山岸俊男

【報告事項】
1. 「実験社会心理学研究」審査・編集状況
   投稿総数
   今年度受付（1998年４月〜1999年３月）
   論　文　19　　資　料　２　　展　望　２
   今年度取り扱い（1999年３月末現在、過年度受付分も含む）
   受　理　７　　審査中　30　　reject　２　　取り下げ　５
2. ニュースレターの発行
   年３回発行する。
   １号は　1998年11月30日
   ２号は　1999年５月中〜下旬予定
   ３号は　47回大会前に発行予定
3. AJSP審査・編集状況／発行状況
   1999年４月　２巻１号発行
4. AASP大会
   日本から約80件の発表申し込みがあった。
5. 事務作業手順
   事務局の仕事の手順を冊子にまとめた。
6. 雑誌広告開拓
   「実験社会心理学研究」に載せられている広告は、現在５社であるが、新しい広告主を開拓する努力をする。
7. 日本心理学界協議会の報告
   他学会との関係…担当の村田光二常任理事から1998年12月26日に開催された会合の報告がなされた。
   そこでは心理学関連の諸学会のゆるやかな連合を目的とした「日本心理学諸学会連合」を作るための準備委員会が設けたいとの提案があり、了承された。
8. 地区活動
   地区活動への補助金の申請は現在のところ０件である。
   今後ニュースレター及び地区活動担当理事を通して、活動の呼びかけをする。
9. ニュースレター広告申し込み 今年８月の台北でのAASP大会へのツアーに関して、近畿日本ツーリストから次号のニュースレターへの広告の申し込みがあった。

【審議事項】
1. 会員異動について
   「ぐるだいニュース」第13号報告以降の新人会員：17名、退会者12名（内１名－篠塚寛美氏（北海道大学文学部）は死去）が承認された。
2. 「実験心理学研究」第39巻１号掲載論文について
   論文６編，資料１編，展望１編を予定している（別紙の通り）ことが報告され了承された。
3. 「実験心理学研究」第39巻第２号の特集の企画について
   八ッ塚一郎氏の企画：「阪神大震災後のグループダイナミックス―５年目の実践・反省・収穫―」を中心として検討することとした。
   なお、特集の組み方について話し合われた。
   （会員に特集テーマを示して投稿を求めるのか、企画者などが執筆依頼をするのか、依頼する場合には学会会員でなくても良いのか、また、特集論文の審査をどうするのかなど）
   これまでの特集についての常任理事会の審議経過を参考に継続審議する。
4. 「実験心理学研究」第39巻第２号掲載の書評候補書籍選定について
   大坊会長から数冊の推薦があった。選定については、事務局に一任された。
5. 日本学術会議団体登録及び会員候補者推薦について
   事務局より、現在団体登録のための書類を準備中であることが報告され了承された。
   団体登録〆切り　1999年５月30日
   会員候補者推薦〆切り　2000年２月15日
6. 優秀論文選考について
   昨年の日程を参考に、選定作業を進めることが了承された。
7. 三隅賞の選定方法について
   「AJSP掲載論文の中から、アジアの社会心理学発展に寄与する論文１編に与えられる（賞金1,000ドル）」という基本方針を確認した。
   AASPから２名、グルダイ学会から３〜４名の選考委員を出すことになり、本学会からは大坊会長、山岸常任理事、山口勧編集委員の３名とし、詳細については今後AASPと検討することとした。
8. 著作権の帰属の表記について
   現在の執筆・投稿規定の末尾に「12．本誌に掲載された論文の著作権は日本グループ・ダイナミックス学会に帰属する」を加えることが了承された。
   扱い：書籍等への引用に際しては、学会への許可を求めることが望ましい。研究論文等の場合には出典を明記すること。
9. 日本グループ・ダイナミックス学会集団指導士資格認定規則等（案）について
   橋口常任理事を中心に吉田道雄理事・山口裕幸理事・永田素彦理事により協議を重ね、資格認定規則（案）が作成されたことが橋口常任理事から報告され、規則案についての説明がなされた。学会が資格認定することの意義、資格取得希望者数の将来的見通し、資格認定した場合の学会の責任、事務作業負担等について意見が出された。資格認定をする方向で進めるのか、資格認定をするか否かを含めて考えていくのかで認識の不一致があり、これまでの審議経過を見直し継続審議とすることになった。

10. 他学会との連携について
村田常任理事から連携についての提案があった。
AJSPに対するGD学会の負担を軽減する方法、日本社会心理学会との共同大会開催の可能性について今後さらに検討していくことが了承された。なお、併せて大学院院生会費の扱い等についても検討することを確認した。
11. 学会センター関西との委託契約更新について
99年度の委託契約についてこれまで通りの内容で行うことが了承された。
AJSPとニュースレターの発行を年２回から年３回とする。
12. 賛助会員規定と賛助会員の開拓について
「賛助会員は年１口20,000円とし、２口以上の賛助会員へは大会案内、ニュースレター、機関誌を送付する」ことが確認された。
賛助会員は会員名簿に明記する。
今年度、賛助会員の開拓をする。
13. 今年度大会でのシンポジウム等の学会企画について
資格問題の浸透を意図し、これに関するシンポジウムまたは、ワークショップを学会企画として行ったらどうかという提案がなされたが、この問題についての意見の集約が不十分であることから継続課題とした。なお、資格認定に関する実践家の方々の意見を会員に知ってもらうため、グループ・ダイナミックスの現場での実践家の方に次号のニュースレターに書いていただくことが了承された。人選は橋口常任理事を中心に行うことになった。
14. 次回の常任理事会は７月４日（土）午前に予定

★★　学会のホームページ：ご活用ください　★★

すでにご案内申し上げておりますように、グルダイ学会のホームページが開設されております。アドレスは、http://www.nacos.com/JGDA/です。実験社会心理学研究掲載論文の要約や年次大会のご案内、ニュースレターなどが掲載されております。どうぞご活用ください。

★★　学会・研究会等の情報掲示板　★★

◆社会行動研究会

末永俊郎先生、安藤清志先生を中心に、参加者自身の研究の発表とそれに対する討議を行っている研究会です。最近の例会は以下の通りです。

第129回例会
日　時：10月21日（水）　午後６時より　場　所：学士会館分館（東大赤門横）
発表者：村井 潤一郎（東京大学）
題　目：うそ日記

第130回例会
日　時：12月14日（月）　午後６時より　場　所：学士会館分館（東大赤門横）
発表者：大浜 毅美（東京学芸大学）
題　目：対人関係における予期不安：拒絶不安及び関係崩壊不安の様相

第131回例会
日　時：２月19日（金）　午後６時より　場　所：学士会館分館（東大赤門横）
発表者：鈴木 佳苗（お茶の水女子大学）
題　目：認知的複雑性の発達的変化とそのメカニズム

第132回例会
日　時：４月26日（月）　午後６時より　場　所：学士会館分館（東大赤門横）
発表者：勝谷 紀子（東京都立大学）
仮　題：他者からの社会的フィードバックが抑うつ者の認知的・感情的反応に及ぼす影響

連絡先
沼崎 誠（東京都立大学）numazaki@bcomp.metro-u.ac.jp
（お茶の水女子大学　坂元 章）

◆名古屋社会心理学研究会（NSP）

名古屋社会心理学研究会（NSP）は以下のような活動を行いました。

1998年12月12日（土）　第4回名古屋社会心理学研究会
テーマ　初等・中等教育における心理学についての教育の可能性―心理学者が発信する子どもへのメッセージ―
発表者　吉田寿夫（兵庫教育大）　参加者　26名

1999年２月20日（土）　第5回名古屋社会心理学研究会
テーマ　リーダーシップ過程における性差発現機序に関する研究
発表者　坂田桐子（広島大学総合科学部）　参加者　28名

1999年３月６日（土）　第6回名古屋社会心理学研究会
テーマ　社会心理学の２、３の基本的課題
発表者　長田雅喜（名古屋大学情報文化学部）　参加者　33名

1999年４月23日（土）　第1回名古屋社会心理学研究会
　テーマ　社会規範からの逸脱行為における違反抑止メッセージの効果
　発表者　北折充隆（名古屋大学教育学研究科）　参加者　31名

（名古屋大学　植村善太郎）

◆九州地区社会・教育心理学研究会（KESP）

　九州地区では久留米大学の原岡・安永両先生のマネージで，KSEP（「九州地区 社会・教育心理学研究会」）が継続的に行われています。今回は年度（1998年）の内容をお知らせします。この研究会も94年１月のスタートからすでに23回を重ねています.

1998年５月16日
　北島茂樹　氏（産業医科大学）深尾　誠　氏（大分大学）
　企業の社会貢献活動の研究とその構想

1998年８月６日
　東江平之　氏（名桜大学）
　沖縄のアイデンティティ

1998年９月５日
　佐藤正二　氏（宮崎大学教育学部）
　学校介入としての社会的スキル訓練

1999年１月９日
　山口裕幸　氏（九州大学教育学部）
　集団の創発特性を誘発するコミュニケーション特性の研究

1999年３月19日
　ロイヤス・ティモシー氏（久留米大学外国語研究所）・園田直子氏（久留米大学文学部）
　自己に関する比較文化的研究

　また，福岡にある集団力学研究所でも，実践現場での研究を含めた研究会が開かれています。昨年になりましたが，８月30日には，「新しい社会心理学」「中国におけるリーダーシップ研究」「安全確保のためのグループダイナミックス」などをテーマに研究会を開催しました。主な出席者：黒川正流（広島大学），橋口捷久（福岡県立大学），杉万俊夫（京都大学），吉山尚裕（大分芸術文化短期大学），矢守克也（奈良大学），吉田道雄（熊本大学），山浦一保（広島大学），永井智久（広島大学）ほか。

（熊本大学　吉田道雄）

◆東北グループダイナミクス研究会

　東北地区では大渕憲一先生を中心に研究会を開催致しております。昨年の開催状況は以下のとおりです。

1998年６月19日（土）
　鈴木淳子氏（東北大学文学部：日本語教育学）
　　飲酒イメージ調査
　木村邦博氏（東北大学文学部：行動科学）
　　女性の学歴・就業形態と性別役割意識―合理的選択と認知的不協和―
　福島治氏（岩手県立大学社会福祉学部）
　　対人葛藤における自己呈示
　神林 博史氏（東北大学文学研究科：行動科学）
　　性役割意識の多次元性に関する考察
　佐々木美加氏（東北大学文学研究科：心理学）
　　非言語的メッセージが葛藤解決に及ぼす影響
　今在慶一朗氏（東北大学文学研究科：心理学）
　　社会的価値と公正知覚、及びその効果―認知心理学的アプローチ導入のための試論

1998年10月23日（金）
　Prof. Barbara Benedict Bunker (State University of New York at Baffalo)
　　Trust in Work Relationships

1999年２月23日（火）
　鈴木麻里子（東北大学文学研究科）
　　日本企業における対人葛藤…建設的葛藤とは―葛藤争点と目標達成が組織コミットメントに与える影響―
　小林宏美（東北大学文学部学部生）
　　対人葛藤の「よい」解決と「わるい」解決〜親子間の対立をめぐって

（東北大学　今在慶一郎）

★★　本年度の主な関連学会の日程　★★

産業・組織心理学会「産業組織心理学会第15回大会」
　日　時：1999.9.10-11
　会　場：富士短期大学
　http://www.kyushu-u.ac.jp/html/KANREN/JAIOP/Welcome.html

日本応用心理学会：「日本応用心理学会第66回大会」
　日　時：1999.9.11-12
　会　場：東京国際大学（川越市）

日本感情心理学会：「日本感情心理学会第７回大会」
　日　時：1999.5.29-30
　会　場：文京女子大学（埼玉県大井町）
　http://psychology.doshisha.ac.jp/JSREHome/JSREtop.html

日本教育心理学会：「第41回教育心理学会総会」
　日　時：1999.8.25-27
　会　場：兵庫教育大学、甲南女子大学
　http://202.254.13.165/users/kyoushin99/index.htm

日本行動計量学会：「日本行動計量学会第27回大会」
　日　時：1999.9.20-22
　会　場：岡山県倉敷市美観地区周辺　第１会場 倉敷市芸文館　第２会場 倉敷市民芸館
　http://www.f7.ems.okayama-u.ac.jp/~bsj99/

日本コミュニケーション学会：「第29回日本コミュニケーション学会」
　日　時：1999.6.19-20
　会　場：浜松医科大学
　http://www.hama-med.ac.jp/meetings_index.htm

日本社会心理学会：
　日　時：1999.10.30-31
　会　場：慶應義塾大学
　http://www/felt.keio.ac.jp/~platon/social40.html

日本心理学会：「日本心理学会第63回大会」
　日　時：1999.9.5-7
　会　場：中京大学
　http://www.cnc.chukyo-u.ac.jp/users/jpa99/

日本性格心理学会：「日本性格心理学会第８回大会」
　日　時：1999.9.18-19
　会　場：育英短期大学（群馬県高崎市）
　http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jspp/pub/news/news_10/news10_02.html

日本認知科学会：「第２回認知科学国際会議・日本認知科学会第16回大会 合同会議」
　日　時：1999.7.27-30
　会　場：東京都新宿区早稲田大学国際会議場
　http://www.sccs.chukyo-u.ac.jp/jcss/

日本犯罪心理学会：「日本犯罪心理学会第37回大会」
　日　時：1999.9.24-25
　主　催：東北大学教育学部（会場未定）
　http://www.nichigaku.go.jp/syukai99a_1.html

　なお、ここに掲載されておりません学会の情報につきましては、日本学術会議のホームページ（http://www.nichigaku.go.jp/index.html）などをご参照ください。

（編集後記）岩手の桜は例年より１週間ほど早く、ゆっくり鑑賞もできないうちに散ってしまいました。連休明けは、春を通り越して夏を思わせるような陽気が続いています。温暖化の影響でしょうか。
　学会をめぐる環境も変化が激しいようです。今回は資格問題を取り上げましたが、理事会の議事録をみていただければおわかりのように、他にもさまざまな問題をかかえております。どのようなご意見でも結構ですから、事務局あるいはNL担当あてお寄せください。
　次回は９月初旬、学会前の発行予定です。その前に、台北学会の盛り上がりを期待致しております（堀）。